

三原市教育振興基本計画

令和7年度～令和16年度

三原市教育委員会

令和7年4月

目次

教育振興基本計画の概要	1
施策の体系	2
＜基本目標 2 三原で生まれ、育ち、学んで良かったと思えるまち＞	3
2－2－1 学校教育・就学前教育の充実	3
2－2－2 教育環境の整備・充実	6
2－3－1 生涯学習の振興	8
2－3－2 青少年の健全育成	10
2－3－3 文化・芸術の振興	12
2－3－4 スポーツの推進	14
＜基本目標 5 「三原らしさ」を存分に活かし、人々が交流するまち＞	16
5－3－1 歴史・文化財の保存・活用	16

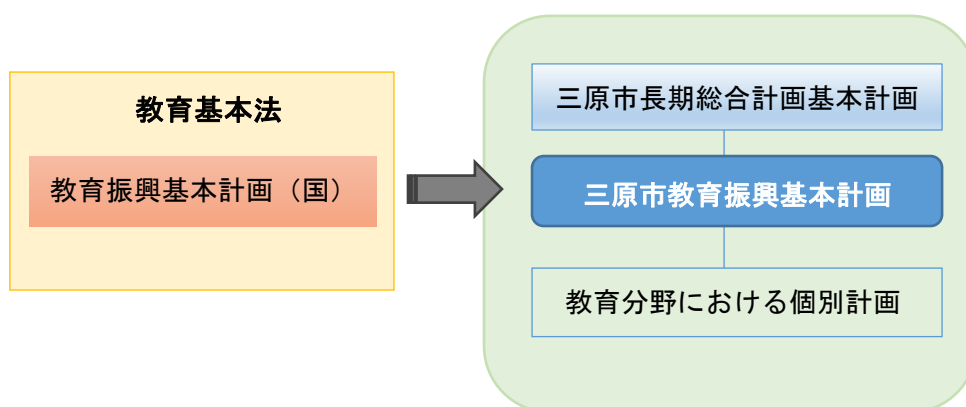
教育振興基本計画の概要

1 策定の趣旨

令和7年3月に三原市が策定の「三原市長期総合計画基本計画」に基づき、三原市教育委員会として取り組む今後の中期的な施策・事業の具体的な内容や数値目標等を「三原市教育振興基本計画」として明らかにし、もって本市の教育の振興に資する。

2 計画の位置付け

本計画を、教育基本法第17条第2項の規定に基づく本市における教育振興基本計画として位置付ける。



3 計画の期間

令和7年度から令和16年度までの10年間

4 施策，取組及び指標

別紙のとおり

2 施策の体系

〈基本目標〉		〈政策〉	〈施策〉
1 ともに支え合い、 ともに認め合えるまち	1-1	人権、男女共同参画	1-1-1 人権教育・啓発の推進 1-1-2 男女共同参画社会の形成
	1-2	市民活動	1-2-1 地域づくり活動の活性化 1-2-2 市民協働のまちづくりの推進
	1-3	国際化・多文化共生	1-3-1 国際化・多文化共生の推進
2 三原で生まれ、育ち、学んで 良かったと思えるまち	2-1	子ども・子育て	2-1-1 子ども・子育て支援の充実
	2-2	学校・就学前教育	2-2-1 学校教育・就学前教育の充実 2-2-2 教育環境の整備・充実
	2-3	生涯学習、文化、スポーツ	2-3-1 生涯学習の振興 2-3-2 青少年の健全育成 2-3-3 文化・芸術の振興 2-3-4 スポーツの推進
3 社会に調和し、安全・安心・ 快適に暮らせるまち	3-1	健康、医療	3-1-1 健康づくりの推進 3-1-2 医療体制の維持
	3-2	福祉、介護	3-2-1 地域共生社会の推進 3-2-2 長寿社会対策の推進 3-2-3 障害者福祉の充実 3-2-4 社会保障制度の適正な運営
	3-3	防災・減災	3-3-1 災害対応力の強化 3-3-2 災害に強いまちの構築
	3-4	生活の安全安心	3-4-1 消防・救急体制の整備 3-4-2 防犯活動・交通安全対策の推進 3-4-3 消費者・生活者の安心の確保
	3-5	環境	3-5-1 環境保全と脱炭素の推進 3-5-2 循環型社会の形成
	3-6	生活基盤	3-6-1 計画的なまちづくりの推進 3-6-2 快適で安全な道路網の形成 3-6-3 都市基盤の保全・整備 3-6-4 安全・安心な水の安定供給 3-6-5 汚水の適正処理 3-6-6 快適で安全な住まいづくり 3-6-7 持続可能な地域公共交通網の形成
4 多彩な産業が活力を生むまち	4-1	起業	4-1-1 起業の支援
	4-2	商工業・サービス業	4-2-1 商工業・サービス業の振興
	4-3	農林水産業	4-3-1 農林水産業の担い手育成と生産振興 4-3-2 農林水産基盤の保全と長寿命化
5 「三原らしさ」を存分に活かし、 人々が交流するまち	5-1	移住・関係人口	5-1-1 移住の促進、関係人口の創出
	5-2	観光	5-2-1 観光の振興
	5-3	歴史、文化財	5-3-1 歴史・文化財の保存・活用
	5-4	空港、港湾	5-4-1 空港・港湾の活用
	5-5	中心市街地	5-5-1 中心市街地の活性化

各施策を推進するための
重要な考え方

計画の実現に向けて

6-1	行財政運営	6-1-1 適正・効果的な行政運営の推進 6-1-2 適正な財政運営の推進
6-2	デジタル化	6-2-1 デジタル化の推進
6-3	情報発信	6-3-1 戦略的・効果的な情報発信

三原で生まれ、育ち、学んで良かったと思えるまち

政策 2-2 学校・就学前教育

施策 2-2-1 学校教育・就学前教育の充実



基本目標の実現に向けた、施策がめざす三原市の姿

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成することにより、児童生徒の生きる力が育まれている。

現状

- 質問紙調査で「授業がわからない」と回答する児童生徒が一定数おり、平成 31 年度まで上昇していた学力調査* 結果が、それ以降伸び悩んでいます。
- 生活習慣の乱れ、学校に行く意義が感じられない、友人関係・教職員との関係への悩み等から、不登校の児童生徒が年々増加しています。
- 自分の良さを自覚できる場面や人の役に立ったと実感できる場面が不足しており、自己肯定感が低い児童生徒が一定数います。
- 運動の楽しさを見いだせない児童生徒が一定数おり、外遊びや部活動で運動に親しむ児童生徒が減少しています。
- 幼稚園・保育所等適正配置実施計画に基づき、保護者の多様なニーズに対応して私立幼稚園が認定こども園化しています。
- 幼稚園・保育所等適正配置実施計画に基づき、市内全ての教育・保育施設へ、一定水準の幼児教育と保育を提供できるよう、市立幼稚園型認定こども園を幼児教育の拠点施設としています。

課題

- 児童生徒が主体的に学び、「わかった」「できた」を感じられる学びの場が必要です。
- 児童生徒が安心して学ぶことができる多様な学びの場づくりが必要です。
- 児童生徒が自分の良さや人の役に立っていることを実感できる場をつくる必要があります。
- 児童生徒が生涯にわたって、運動に親しむための基盤づくりが必要です。
- 保護者の幼児教育のニーズに対応するため、私立の幼稚園と幼稚園型認定こども園を支援する必要があります。
- 幼稚園、保育所、認定こども園において、質の高い学びが必要です。

基本方針 1

児童生徒の学ぶ力を育むため、授業を改善するとともに、指導体制を充実させます。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
全国平均に対する学力定着の状況	小学校 101.4% 中学校 95.9% (令和6年度)	小学校 101% 中学校 101%
「授業の内容がよくわかりますか」に肯定的回答をした児童生徒の割合	小学校 83.2% 中学校 80.5% (令和6年度)	小学校 85% 中学校 85%
「わからないことや詳しく知りたいことがあったときは、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」に肯定的回答をした児童生徒の割合	小学校 83.8% 中学校 79.0% (令和6年度)	小学校 85% 中学校 85%

基本方針 2

地域や社会へ貢献しようとする態度や自己肯定感を育むため、特別活動*や地域貢献活動を充実させます。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
「自分にはよいところがありますか」に肯定的回答をした児童生徒の割合	小学校 84.8% 中学校 82.2% (令和6年度)	小学校 85% 中学校 85%
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に肯定的回答をした児童生徒の割合	小学校 83.3% 中学校 76.3% (令和6年度)	小学校 85% 中学校 85%

基本方針 3

生涯にわたって運動に親しもうとする児童生徒を育むため、運動の楽しさを実感するきっかけとなる環境を充実させます。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
「運動することは好きですか」に肯定的回答をした児童生徒の割合	小学校 89.8% 中学校 84.4% (令和6年度)	小学校 90% 中学校 90%
児童生徒の体力・運動能力が全国平均を上回った種目数	小学校 6種目 中学校 14種目 (令和6年度)	小学校 15種目 中学校 15種目

基本方針 4

安心して子どもを生み育て、学ばせる幼児教育を提供します。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
開園している市立幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む）の施設数	3 か所 (令和 6 年 4 月)	3 か所
開園している私立幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む）の施設数	5 か所 (令和 6 年 4 月)	5 か所

基本方針 5

児童生徒の心身の健全な発達と食生活の改善に寄与する学校給食を安定的に提供します。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
学校給食残菜* 率	4.7% (令和 5 年度)	4.0%

主な部門別計画

- ・ 三原市教育振興基本計画（令和 7 年 4 月策定予定）
- ・ 第 4 期三原市幼稚園・保育所等適正配置実施計画（令和 7 年 3 月策定）



幼稚園：創造力を育む学び合いの様子

三原で生まれ、育ち、学んで良かったと思えるまち

政策 2-2 学校・就学前教育

施策 2-2-2 教育環境の整備・充実



基本目標の実現に向けた、施策がめざす三原市の姿

教育の情報化に対応した ICT* 機器が整備され、児童生徒が効果的に教育を受け、学校施設において安全で快適な環境で学習している。

現状

- 国が示す GIGA スクール構想*の実現に向け、児童生徒一人 1 台の ICT* 端末と校内 LAN*を整備しましたが、ICT* 端末などの機器は進化しているため、計画的な整備と更新が求められています。
- 築後 30 年～40 年が経過し、老朽化が進行した学校施設について、安全性や快適性を確保するため、計画的な改修と修繕が求められています。

課題

- 新たな ICT* 機器の整備や更新、維持管理のための財源や専門的な知識を有する人材を確保する必要があります。
- 学校施設長寿命化計画の実行のための財源や技術職員の人材を確保する必要があります。



長寿命化工事で改修された中学校の体育館アリーナ



長寿命化工事で改修された小学校の校舎

基本方針 1

教育の情報化に対応した ICT* 機器の整備や更新を行い、必要な学校教材を整備します。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
ICT* 端末の整備率	100% (令和 6 年 5 月)	100%

基本方針 2

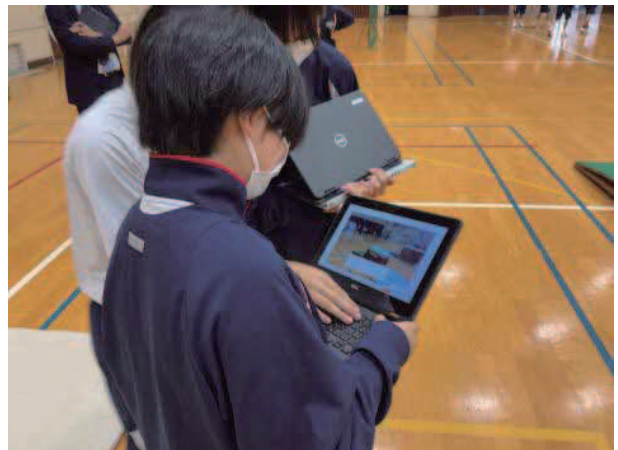
児童生徒の学習環境を整え、学校施設の安全性や快適性を確保します。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
学校施設長寿命化計画の個別計画の進捗率	24% (令和 6 年 3 月)	100%

主な部門別計画

- ・三原市学校教育情報化推進計画（令和 7 年 3 月策定）
- ・三原市学校施設長寿命化計画（令和 3 年 2 月策定）
- ・三原市教育振興基本計画（令和 7 年 4 月策定予定）



授業での ICT* 端末の活用

三原で生まれ、育ち、学んで良かったと思えるまち

政策 2-3 生涯学習、文化、スポーツ

施策 2-3-1 生涯学習の振興



基本目標の実現に向けた、施策がめざす三原市の姿

生涯学習を希望する人が、希望する活動をしていることができる。

現状

- 人生 100 年時代*、超スマート社会*の進展など、社会が大きな転換点を迎え、生涯学習の重要性が高まっており、リスキリング*や嗜好に対応した新たなメニューへの需要も高まっています。
- 社会教育施設の経年劣化が進行し、空調の故障など、市民の利用に支障が生じる場合があります。

課題

- 新しい需要への対応も含めて、生涯学習の機会と場を提供する必要があります。
- 施設の適切な管理・計画的な修繕を実施し、快適に学ぶ環境を維持する必要があります。



市民大学（大学祭）



中央図書館

基本方針 1

市民が生涯を通じて快適に生涯学習に取り組むことができる、機会と場を提供します。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
生涯学習施設の利用者数	350,074 人 (令和 5 年度)	330,000 人以上
みはら市民大学の学生数	1,131 人 (令和 6 年度)	1,000 人以上
図書館における図書資料の市民一人当たりの貸出冊数	5.3 冊 (令和 5 年度)	7.0 冊



中央公民館（発表会）



本郷生涯学習センター

三原で生まれ、育ち、学んで良かったと思えるまち

政策 2-3 生涯学習、文化、スポーツ

施策 2-3-2 青少年の健全育成



基本目標の実現に向けた、施策がめざす三原市の姿

学校・家庭・地域の連携が深まり、青少年が交流・体験活動等を通じて、自分たちの住む場所への愛着を持ち、地域貢献の意識が高まっている。

現状

- 家族形態の変容や価値観・ライフスタイルの多様化などにより、地域社会とのつながりや人間関係が希薄になっています。
- 青少年が日常生活の中で学ぶべき自主性や社会規範など、社会生活を営む上で必要な能力を学ぶ機会が少なくなっています。
- インターネットの普及に伴い、SNS*やオンラインゲームなどの利用が増加し、それに伴うトラブルや依存症の問題が深刻化しています。
- 社会生活を営む上での難しさや生きづらさを抱えた青少年が増加しています。

課題

- 学校と家庭、地域が連携し、子どもたちの学びやふれあいを支える環境づくりが必要です。
- 家庭や地域の教育力を高めるため、家庭教育についての学習機会の提供や助言体制を充実させる必要があります。
- 青少年を有害情報から守るため、意識啓発活動などを通じて、メディアリテラシー*の向上や規範意識の醸成が必要です。
- 課題を抱えた青少年やその家族の社会的孤立を防ぐため、一人ひとりに寄り添った支援が必要です。

基本方針 1

学校や家庭、地域が一体となって連携を深め、地域全体で子どもを見守り、育む環境づくりを推進します。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
「コミュニティ・スクール*や地域学校協働*活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」に肯定的回答をした小学校の割合	70.0% (令和6年度)	100%
「コミュニティ・スクール*や地域学校協働*活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」に肯定的回答をした中学校の割合	40.0% (令和6年度)	100%

基本方針 2

地域や人とのふれあいの中で青少年を健全に育成できるよう、様々な体験活動や交流の機会を提供し、社会参加を促進します。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
「将来の夢や目標を持っていますか」に肯定的回答をした児童の割合	80.9% (令和6年度)	85%
「将来の夢や目標を持っていますか」に肯定的回答をした生徒の割合	66.0% (令和6年度)	70%

主な部門別計画

- ・みはらこども・子育て応援プラン（令和7年3月策定）



少年少女海外研修



学びのテーマパーク（プラネタリウム）

三原で生まれ、育ち、学んで良かったと思えるまち

政策 2-3 生涯学習、文化、スポーツ

施策 2-3-3 文化・芸術の振興



基本目標の実現に向けた、施策がめざす三原市の姿

市民が文化芸術の鑑賞・発表を楽しんでいる。

現状

- 文化・芸術を楽しむ、活動に取り組む機会と場があると感じる市民の割合が減っています。

課題

- 絵画や音楽など文化芸術を鑑賞し、発表する機会を提供する必要があります。
- 興味関心を持つ人が増えるよう、体験する機会を提供する必要があります。
- 活動の拠点施設である芸術文化センター「ポポロ」で、多彩な鑑賞の場を提供する必要があります。
- 三原市芸術文化センター「ポポロ」長寿命化計画に基づき、計画的に施設の適正な維持管理をする必要があります。



美術展覧会での作品解説



日本画の体験会

基本方針 1

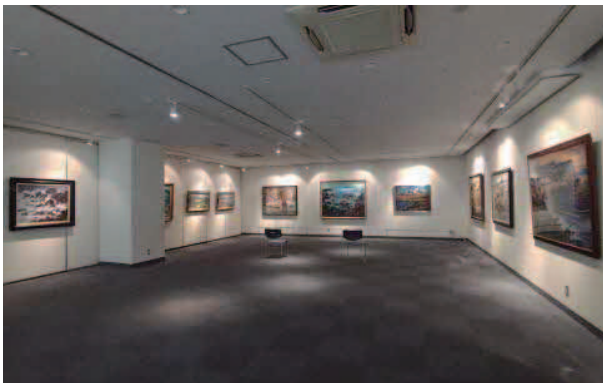
文化芸術の振興を図るため、絵画や音楽などを鑑賞・発表・体験する機会を提供します。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
鑑賞機会（三原市美術展覧会・市民音楽祭・所蔵品展・映画祭）の入場者数	3,820 人 (令和 5 年度)	3,642 人以上
発表機会（三原市美術展覧会・市民音楽祭）の参加者数	568 人 (令和 5 年度)	542 人以上
三原市美術展覧会・市民音楽祭などでの体験会への参加者数	34 人 (令和 5 年度)	32 人以上
市民ギャラリー ギャラリー 1・2の入場者数	8,722 人 (令和 5 年度)	8,315 人以上
芸術文化センター「ポポロ」の利用者数	24,089 人 (令和 5 年度)	92,159 人

主な部門別計画

- ・三原市芸術文化センター「ポポロ」長寿命化計画（令和 2 年 3 月策定）



市民ギャラリー



「ポポロ」ホワイエでの催し

三原で生まれ、育ち、学んで良かったと思えるまち

政策 2-3 生涯学習、文化、スポーツ

施策 2-3-4 スポーツの推進



基本目標の実現に向けた、施策がめざす三原市の姿

スポーツに親しんでいる市民が増えている。

現状

- ほとんどスポーツをしていない人が3割を超え、特に50歳未満の実施頻度が低い状況です。
- スポーツが嫌い、興味がない人の割合が5割を超えています。
- スポーツ施設の老朽化などにより、快適にスポーツをする環境が整っていません。
- 全国レベルの大会やイベントが少なく、スポーツに興味を持ってもらう機会が少ない状況です。
- スポーツ少年団の活動団体数・団員数ともに年々減少している状況です。
- 高齢化やライフスタイルの多様化などにより、指導者の減少が続いています。

課題

- それぞれのライフステージ*に応じて様々な関わり方でスポーツを体験する機会が必要です。
- 市民のニーズに応じて、気軽にスポーツに触れる機会が必要です。
- 多様化するスポーツニーズに応じて、施設や設備環境を整備する必要があります。
- スポーツ大会の開催や合宿等の誘致を行う必要があります。
- 普段からスポーツに取り組んでいない子どもたちを中心に、いろいろなスポーツを体験できる場が必要です。
- 競技団体だけでなく、スポーツに関わる様々な人々との連携による活動を行う必要があります。

基本方針 1

市民がライフステージ*に応じて、気軽にスポーツに親しむことができる環境を整えます。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
公共スポーツ施設の利用者数	412,362人 (令和5年度)	422,000人

基本方針 2

普段からスポーツ・運動に取り組んでいない市民を含め、多くの市民に参加してもらうため、スポーツに触れる機会を提供します。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
観戦できるスポーツ大会の開催数（累計）	16回 (令和6年3月)	65回

基本方針 3

各種スポーツ関係団体などとの連携を強化し、指導者の育成などにより、誰もが気軽に、自分にあったスポーツを見つけられるような環境を整えます。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
新規資格取得指導者数（累計）	170人 (令和6年3月)	380人

主な部門別計画

- ・三原市スポーツ推進計画（平成29年4月策定）



スポーツのテーマパーク



ファンライド in さざしま

「三原らしさ」を存分に活かし、人々が交流するまち

政策 5-3 歴史、文化財

施策 5-3-1 歴史・文化財の保存・活用



基本目標の実現に向けた、施策がめざす三原市の姿

みはら資源の価値を地域全体で認め、継承している。

みはら資源…指定を受けた文化財だけでなく、三原らしさをあらわし、「三原をかたちづくる」有形・無形の文化財や財産を言います。

現状

- 地域の宝であるみはら資源が、認識不足、継承者不足、経済活動、異常気象などによって損失する可能性があります。
- 観光、経済、地域づくりなどの場面でのみはら資源の活用は一部にとどまっているため、市独自の歴史と文化を市内外の人知らないことが多くあります。
- 守り、活かす取組を支える仕組みがないことにより、所有者や団体の活動が停滞し、経済的負担も大きくなっています。
- 歴史文化に関心を持つ人や団体が交流できる場や機会が少ないことにより、その関心の継続や新しい活動の展開ができていません。
- 施設の老朽化や展示の固定化のほか、娯楽の社会的な変化によって、歴史文化の学習の拠点施設である歴史民俗資料館への来館者が減少し、三原独自の歴史文化を学び楽しむ人が減っています。
- 人口減少などによる自治組織の小規模化や情報化社会*による文化や生活様式の均一化によって、自らが暮らす地域の伝統行事や特徴、歴史が忘れられてきています。

課題

- 価値が明らかになっていないみはら資源の調査を行い、損失に備え、保護する必要があります。
- みはら資源の価値を明らかにし、その価値を多くの人に知らせる必要があります。
- 所有者や団体の活動を継続拡大するための支援が必要です。
- 将来、みはら資源を支える新たな人材の掘り起こしと育成が必要です。
- 歴史文化について学習する拠点である三原市歴史民俗資料館は、拠点施設としての機能を充実させる必要があります。
- 歴史文化に関心を持つ人や団体が交流できる場や機会が必要です。
- みはら資源を地域の象徴として保存活用に取り組む団体を増やす必要があります。

基本方針 1

多種多様なみはら資源の価値を明確にした上で、地域などで共有し、みはら資源をまもります。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
指定文化財数	298 件 (令和 6 年 3 月)	320 件
みはら資源の調査件数（累計）	2,783 件 (令和 6 年 3 月)	3,000 件
みはら資源のデジタル化件数（累計）	3,203 件 (令和 6 年 3 月)	4,200 件

基本方針 2

みはら資源を地域の誇り・象徴としてまちづくりにいかします。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
みはら資源を「いかす」取組として実施した事業への参加者数	60 人 (令和 6 年度)	110 人
歴史民俗資料館の来館者数	4,472 人 (令和 5 年度)	8,000 人
みはら資源に関する市 HP 閲覧回数	15,779 回 (令和 5 年度)	17,000 回

基本方針 3

文化財を「まもる」ことで「いかす」ことができる、「いかす」からこそ「まもる」取組を進めるという好循環を「ささえる」仕組みをつくります。

成果指標

指標の名称	現状値（時点）	目標値（10年後）
みはら資源の保存活用を行っている活動団体数	31 団体 (令和 6 年 3 月)	31 団体
「ささえる」人材育成のためのボランティア*事業参加者数	15 人 (令和 6 年度)	35 人

主な部門別計画

- ・三原市文化財保存活用地域計画（令和 5 年 12 月策定）